

# 奄 美 大 島 の サ ン ゴ 礁

奄美大島の周辺は裾礁と堡礁が混在しているが、主に裾礁が多く見られる。傾斜のある海岸線の近くに固いサンゴの幼生が岩に付着し、裾礁が形成される。サンゴポリプは石灰岩（炭酸カルシウム）を分泌し、死滅すると骨格を残す。サンゴの層が増えると、海に向かって成長し礁湖やラグーンと呼ばれる平坦で浅瀬のエリアが岸から広がる。奄美大島に生息するサンゴは様々な形で、中には幅広い水平の面が特徴のテーブルサンゴや枝状に分かれて群生するエダサンゴが主に存在する。

## 南からの援助

奄美大島のサンゴ礁は、黒潮の強く早い流れにより発達している。始点であるフィリピン沖から暖流とサンゴの幼生を北上させ、現地の沿岸の海水と混ざり合う。最近の研究では、海流が海岸線にぶつかると海底が乱れ、近隣のエリアに養分を供給したことがわかった。

## 野生生物の住居と保護

サンゴ礁は、島の環境に大きな影響を与えており、津波等強い波から海岸線を守っている。カニ、ウニ、海綿動物、魚等の多様な生物が生息する豊かな生態系でもあり、礁湖には渡り鳥や留鳥が浅瀬で餌を取る。奄美大島のサンゴ礁は、世界自然遺産の重要な要素となっている。